

2011年6月3日

経済産業大臣 海江田万里様  
原子力安全・保安院長 寺坂信昭様

## 原発に頼らない、子どもたちが放射性物質に怯えることのない 安心して暮らせる社会を市民とともに目指して下さい

福島第一原発事故以来、収束のために日夜ご尽力いただき、ありがとうございます。

地震、津波、福島第一原発事故が起きて以来、全国のお母さんたちは福島の人たちのことをとても心配し、胸を痛めています。特に子どもたちのことが心配です。これ以上、子どもたちが放射性物質に怯える社会を作ってははいけません。私たち大人は、未来を担う子どもたちのために、安心して暮らせる日本を残していく責務があります。

以下四点を関係各所に働きかけ、『原発のない、子どもたちが放射性物質に怯えることのない安心して暮らせる社会』を市民とともに目指して下さいようお願いいたします。

1. 福島第一原発、原子力発電所、放射性物質に関する正しい情報を市民に公開することを求めます。原子力 PR 館等において、原子力発電所の安全性と危険性について、スリーマイル、チェルノブイリ、福島第一原発事故などを例として説明して下さることを求めます。
2. 福島第一原発事故後に暫定的に決定した、食物、大気、水中での放射線量を、外国政府や国際機関の平常時における基準値を参考に再検討して下さることを求めます。
3. クリーンで安全な代替エネルギーの開発を進め、日本国内全ての原子力発電所の運転停止を目指して下さいを求めます。
4. 「脱原発」とクリーンで安全な代替エネルギーの開発のために、国内外の諸機関と情報交換を行い連携することを求めます。

日本には 54 基の原発があり、地震が起きれば福島第一原発のような事故は全国どこでも起きる可能性があります。福島第一原発事故以降、全国で反・脱原発のパレードやイベントが実施され、関連するホームページが立ち上げられています。そうしたことを通じて同じ想いを持つお母さんたちが知り合い、「福島そして日本全国の子どもたちを守ろう」というネットワークが自然に生まれました。

私たちは、今後とも経済産業省、原子力安全・保安院が出す正しい情報を学び、福島そして日本全国の子どもの健康と環境について考えていきたいと思えます。そして節電や省エネを心がけた暮らしをし、原発に頼らない、子どもたちが放射性物質に怯えることのない社会を国とともに作っていききたいと思えます。私たちの「子どもを守りたい」という願いをお聞き入れいただけますようお願い申し上げます。

いのちを守るお母さん全国ネットワーク

東京支部：横関彩子

関西支部：増山麗奈

6.3 アクション事務局：戸倉由紀枝

Tel: 090-4401-8774

E-mail: inochimother@gmail.com

<http://ameblo.jp/inochimother/>